



児童養護施設の子供たちを対象とした  
海洋性レクリエーション体験 調査報告書

## はじめに

B&G 財団では、1976 年から 2000 年まで地方自治体の要請に基づき、海洋性スポーツ・レクリエーションを通じた青少年の健全育成施設として、艇庫・プール・体育館からなる B&G 海洋センターを建設し、地元自治体に無償で譲渡した。施設建設と並行し、各施設で事業を計画・実施し、現場指導を行うことのできる指導者を養成し、資格登録者は 1 万 8 千人を超えている。

全国 390 自治体にある 471 カ所の海洋センターでは、水辺の体験活動やスポーツを通じた青少年の健全育成に取り組むとともに、地域住民のスポーツ活動や健康づくりなどの事業を実施。近年では、合唱サークルなどの文化活動や子育て広場などスポーツ以外での活用も広がり、地域コミュニティの拠点としての機能も有するようになってきている。

一方、情報化や少子化など子供たちを取り巻く環境は大きく変化している。虐待や育児放棄などを受けている子供たちが社会問題化し、親の収入を主な原因とする格差社会もクローズアップされるようになり、子供の貧困が喫緊の課題とされるようになった。2014 年には「子供の貧困対策に関する大綱」が閣議決定され、官民で困難な状況に置かれている子供たちへの対応が求められるようになってきている。そのような中、当財団では 2014 年度に青少年の健全育成推進計画を策定。豊かな人間性の形成など成長期の子供に欠かせない教育的効果のある自然体験活動のさらなる推進と、海洋センターに福祉的機能を持たせる「体験格差」事業に着手することとした。

その一つとして、社会的養護施設である「児童養護施設」をターゲットに絞り、施設で生活している子供たちの特徴や自然体験活動の実態、児童養護施設の海洋センター利用の状況や海洋センターでの事業展開などについて、関係者ヒアリングやパイロット事業を実施し、その課題や可能性について調査した。

## 児童養護施設について

児童養護施設は、児童福祉法に定められた児童福祉施設の一つ。保護者のいない児童や、保護者に監護させることが適当ではない児童を、公的責任において養育し保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行う社会的養護機能を持つ。

入所は、児童相談所長の判断に基づき、都道府県知事が決定する。対象は1歳以上18歳未満で、状況により20歳まで延長が可能。主に社会福祉法人が運営しており、予算は国から支出される措置費(約27万/1人)でまかなわれている。行政の担当窓口は、都道府県の福祉部門が担う。

施設への措置理由は、虐待、育児放棄、父母の精神障害が大半で、半数以上が虐待経験ありと答えている。遺児は全体の2%に満たない。

(3) 措置理由別児童数(平成25年度中新規措置児童) (単位:人、%)

区分	里親		乳児院		児童養護施設	
	児童数	割合	児童数	割合	児童数	割合
父母の死亡	123	9.0%	12	0.6%	90	1.8%
父母の行方不明	57	4.2%	41	1.9%	50	1.0%
父母の離婚	12	0.9%	43	2.0%	91	1.8%
父母の不和	10	0.7%	24	1.1%	47	0.9%
父母の拘禁	64	4.7%	84	3.9%	272	5.3%
父母の入院	77	5.6%	216	10.0%	304	6.0%
父母の就労	24	1.8%	77	3.6%	143	2.8%
父母の精神障害	114	8.3%	420	19.4%	530	10.4%
父母の放任怠惰	101	7.4%	243	11.3%	578	11.3%
父母の虐待	199	14.6%	383	17.7%	1,778	34.8%
棄児	9	0.7%	19	0.9%	5	0.1%
父母の養育拒否	250	18.3%	164	7.6%	215	4.2%
破産等経済的理由	56	4.1%	113	5.2%	204	4.0%
児童の監護困難	57	4.2%	—	—	297	5.8%
その他	214	15.7%	321	14.9%	504	9.9%
合計	1,367	100.0%	2,160	100.0%	5,108	100.0%

家庭福祉課調べ(「社会的養護の現況に関する調査」) 76

入所児童には、障害のある者が一定数いるとともに、虐待や育児放棄に起因する精神的な障害を抱える子供もいる。保護されていることもあり、行動範囲が学校と施設に限られてしまい、社会経験が少なく“生活圏の狭さ”が指摘されている。

児童養護施設の運営形態は、20人以上で共同生活する「大舎制」が全体の半数を占めている。近年では、家庭的養護の必要性が指摘されるようになり、小規模人数のユニットケアやグループホームが増えつつある。

## 児童養護施設での自然体験活動

### 自然体験活動の意義

自然体験活動は、文部科学省などの調査から、社会性を育み、学習意欲の向上など子供たちに良い影響を与えることが分かっている。児童養護施設の中央組織である全国児童養護施設協議会も、国立青少年教育振興機構が中心となって進めている子供たちへの自然体験機会の提供活動である「体験の風をおこそう」運動推進委員会の一員となり、各施設で取組むよう促している。



全国の児童養護施設を統括する組織として「全国児童養護施設協議会」が全国社会福祉協議会の中に設置されている。その主な業務は、助成金の情報提供や手続き上の連絡をすることのようである。そのため、各施設の運営や活動の詳細は分からず、自然体験活動の実施状況は把握していない。また、措置費を予算化している厚生労働省をはじめ、関係省庁や各種調査機関においても、そのような調査はされていない。

そこで、海洋センター所在自治体に設置されている児童養護施設 144 カ所に、自然体験活動の実施状況および海洋センターを活用した海洋性レクリエーション体験会の要望について、アンケート調査を行った。

調査実施：2015 年 9 月

調査方法：自治体を通じアンケート調査票を配布 144 カ所

回答数：36 施設（回収率：25%）

調査結果

- ・自然体験活動の実施状況

体験なし	キャンプ	野外調理	海水浴	川遊び	釣り
5	17	19	10	8	3
14%	47%	53%	28%	22%	8%

回答数が少ないため、施設全体の傾向ととらえることは難しいが、自然体験活動を実施していない施設は一定数あると推察できる。

最も行われている活動は野外調理、続いてキャンプとなっている。海水浴や川遊びといった水辺の体験は3割に届いていない。「青少年の体験活動等に関する実態調査（平成24年度調査）」によると、子供たちの8割超が「海や川で泳いだことがある」と答えていることから、一般家庭と比較した場合、施設の子供たちは水辺の体験活動の機会が少ないと考えることができる。

・水辺の自然体験活動への支援

希望する	希望しない
31	5
86%	14%

施設を対象としたカヌーや SUP などの海洋性スポーツの提供を柱とした「水辺の自然体験活動の支援」については、8割を超える施設が希望している。希望していない施設はすでに海水浴などの水辺の自然体験活動を積極的に実施している施設であった。

アンケートから、児童養護施設における自然体験活動は、積極的に実施している施設と、取り組みが少ない施設の二極化傾向にあることが分かった。取り組みが少ない理由として考えられることの一つとして、施設スタッフの能力（資格）をあげることができる。施設職員は児童指導員・保育士・社会福祉士であり、資格取得の過程で自然体験活動の指導法を学ぶことはない。実際に施設スタッフのヒアリングでは、水辺の自然体験活動が実施できない理由として「安全管理」・「スタッフ不足」があげられている。

二つ目の理由として考えられることは、運営形態の変更（大舎制からユニットケア・グループホームへ）である。従来からある大舎制では、ほとんどの施設が野外体験や海水浴などの自然体験活動を施設行事として実施している。これは、施設行事であれば、全スタッフで取り組むことができ、若いスタッフや運動能力に長けたスタッフもいるため人的負荷の高い自然体験活動にも取り組むことができるからのようである。

しかし、少数制であるユニットケアは、家庭的養護が重要視されているため、原則として、スタッフが固定化されている。そのような運営形態のなか、自然体験活動の指導ができるスタッフがいないユニットケアなどでは、自然体験活動を行うことはかなり難しくなる。また、ユニットケアやグループホームでは、行事は子供の意見を尊重することとなっており、これらのことから、買物や映画などインドアの行事が多くなっているようである。ヒアリング調査した福井県大野市にある偕生慈童苑の坪内施設長もユニット制に移行してから、野外活動の機会が減っていると語っている。以上のことから、児童養護施設の子供たちには、体験機会の格差があると考えられる。



## **B & G 海洋センターにおける児童養護施設の事業実態**

海洋センター所在 390 自治体のうち 92 自治体 (23%) に児童養護施設 144 施設が設置されている。海洋センターはスポーツ少年団や子供会などの団体組織にも利用されていることから、児童養護施設の事業や利用状況について、アンケート調査を行った。

調査実施：2015 年 5 月

調査方法：B & G コンパスのアンケート機能による

回答数：288 カ所 (回収率：61%)

調査結果

事業実施や利用がある	事業や利用はない	今後の利用計画がある
3	285	1
1.0%	99.0%	0.3%

この調査から、B & G 海洋センターは児童養護施設に利用されていない状況が判明した。実際に事業や利用があると回答したセンターは、茨城県行方市玉造、愛媛県鬼北町広見、福岡県大任町の 3 センターに限られている。大任町は一般利用、行方市玉造は利用があった場合は、減免 (利用料半額) 利用が可能となっている。両センターとも、特に利用を呼び掛けているわけではないため利用は施設判断による。鬼北町広見は、施設への無料開放 (減免処置) を実施。1 シーズンに 5 回程度利用しており、次年度以降も続ける方向である。

## **海洋センターにおける児童養護施設の利用を進めるために**

### **B & G 海洋センターを知らない児童養護施設**

児童養護施設における自然体験活動については、中央組織である「全国児童養護施設協議会」も「体験の風をおこそう」運動推進委員会の一員となり、施設での推進に取り組んでいる。しかし現状では、スタッフの能力や負荷などからあまり取り組まれていない施設がある。

一方、海洋センターは海洋性スポーツを安全に指導できる指導員が配置されており、地域の公共施設として、低廉な費用で子供たちへ水辺の自然体験活動を提供している。児童養護施設のニーズと海洋センターのサービスは合致していると考えられるが、児童養護施設にアプローチしているセンターはほぼなく、活用されているとはいえない。児童養護施設のヒアリングでは「海洋センターという名称を聞いたことはあるが、どのような施設なのかは知らなかった」、「海洋センターがあることは、知っているが、海洋性スポーツができることは知らなかった」などの声があった。このことから、**児童養護施設における海洋センター認知度の低さが、海洋センターを利用されていない一因**と考えることができる。

認知度が低い理由の一つとして、行政における担当が異なっていることがあげられる。海洋センターは、主に教育委員会の社会教育部門が担当している。一方、児童養護施設の行政担当は、都道府県の福祉部門となっていることから、行政上の連携はほとんどない。このようなことから、B & G海洋センターの活用による、児童養護施設の子供たちの体験格差解消には、海洋センターの周知（場所・体験種目・費用など）を図ることが、その第一歩だと考えられる。

## **児童養護施設の子供たちの受入れ      その特徴と対応**

児童養護施設を対象とした事業を立案するにあたり、子供たちの特徴やプログラムの満足度等を調べるため、12カ所の児童養護施設の子供たち116人に、水辺の安全教室や海洋性スポーツ体験、宿泊型海洋性スポーツキャンプを実施した。また、指導上の留意点や施設としての海洋センター利用について、7カ所の児童養護施設にヒアリング調査を実施した。パイロット事業とヒアリングを通じて分かった児童養護施設の受入れに関する留意事項は以下のとおり。

### **(1) 事前の打ち合わせ**

事前の打ち合わせは必須ではないが、当日のプログラム進行に少なからず影響があることから、実施することが望ましい。時間がある場合は、申し込み時などの機会を利用して行う。時間が取れない場合は、電話やメールで対応することができる。事前打ち合わせすることは、通常確認している、年齢や性別、持物、その他注意事項に加え、以下の5点について確認する。

#### **① 特別な配慮が必要な子供の確認とその対応法**

入所者の中には、虐待による特殊な障害を患っている子供もいる。また、軽度の知的障害児、発達障害児、精神障害児もいる。障害とは診断はされないが、同年代の子供と比較して、理解力や運動能力、コミュニケーション能力が低い子供もいることから、特別な配慮の有無を事前に確認しておくことが必要。なお、施設の子供たちの特徴とその対処法は後述する。

#### **② 施設スタッフも子供たちと一緒に体験する**

施設の子供は、虐待やいじめから、自己肯定感が低い傾向にある。そのことから「他人の目を気にする」・「失敗を恐れる」・「チャレンジ精神に乏しい」などの傾向があり、プログラム時の“盛り上がり”を作ることには時間がかかる。限られた時間の中で楽しさを演出するには、子供たちに安心感と信頼感を与えることができる施設スタッフが一緒になって体験することが効果的である。

### ③ 施設内でバディを決めておく

前述の②と関連するが、自己肯定感の低い子供たちの場合、恥ずかしい、やったことがないなどの理由から、バディを決めることに想像以上に時間がかかる。しかし、バディは安全対策上おろそかにできないため、結果として体験時間が短くなってしまう。以上のような理由から、施設で当日のバディをあらかじめ決めてもらうことが望ましい。

### ④ 広報の方法

海洋センターの活性化には広報活動は欠かせない。しかし、施設に入所している子供たちの中には、親から保護されている子供もいる。実際に両親が子供の居場所（児童養護施設）を知り、取り返しにきた事例もあるため、広報（写真撮影含む）の方法については事前に了解を得る必要がある。

### ⑤ その他の留意事項

事前確認事項は上記4点でほぼカバーできているが、それ以外の留意すべき事項があることも考えられる。

## (2) 子供たちの傾向とその対応

パイロット事業や施設ヒアリングで明らかとなった、施設の子供たちの特徴とその対処法は以下のとおり。

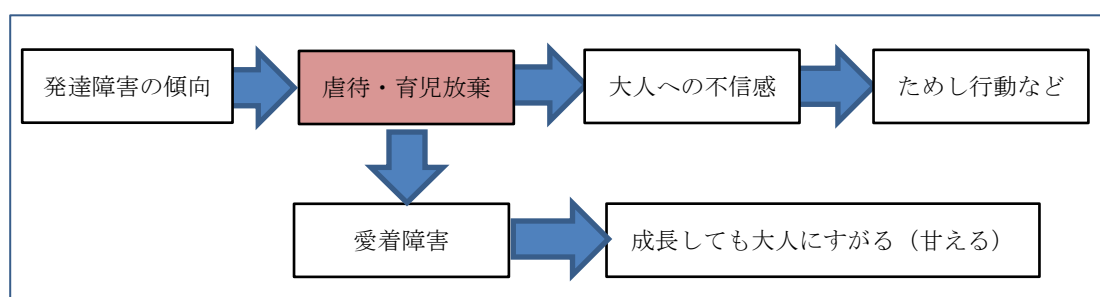
	特徴	その原因	対処方法
1	厳しい言葉やきつい言葉に弱い	虐待 いじめ	単に注意するのではなく「ルールを思い出そう」など声をかけ、注意方法を工夫する。
2	委縮する傾向にある		
3	人の目を気にする		
4	失敗を恐れる		
5	自信がない		
6	新しいことにチャレンジしない		
7	スキンシップを求める	愛着障害※1	スキンシップを求める子供に対しては、同性で対応する。ためし行動は、子供が心を開いていることの現れとされているが、危険が伴う場合（救助艇のエンジンを触るなど）は、その理由を伝え指導しなければならない。プログラム進行上、著しく支障をきたす場合は、その対応を施設スタッフに任せる。
8	ためし行動をする		
9	突如として反抗的になる		
10	大人へ不信感を持っている		
11	同年代と比較し理解力が劣る	発達障害の 傾向	発達障害とまではいかないが、施設の子供たちにはこのような傾向がある。そのため、注意事項などは、単に言葉で説明するのではなく、その行動を見せ、なぜダメなのかを理解させるような工夫が必要。プログラム進行のテンポアップはかなり難しい。
12	コミュニケーションをとることが難しい		
13	気分のむらが激しい		
14	注意力が散漫		
15	異性(男性)に媚びをうる	性的虐待	愛着障害との判別が難しい。同性で対応する。



施設の子供たちは、幼少期の虐待や育児放棄から「自信がない」などの自己肯定感が低いものが多いことから、些細なことでも褒めることを意識し、積極的にチャレンジするように促したい。また、施設には幼稚園児から高校生まで幅広い年代の子供たちがいる。年代別の種目や指導法などを準備することも必要である。

指導で最も注意しなければならないことは、愛着障害と性的虐待を受けた子供への対応である。事前に把握できればよいが、パイロット事業では事前に教えてもらうことはできなかった。女子への対応を考えると、女性スタッフは欠かせないものと思われる。

なお、施設では虐待や育児放棄を受けたことによる子供たちの特徴は以下のプロセスを経て形成されていると考えている。



※1 愛着障害（デジタル大辞泉から抜粋）

乳幼児期に長期にわたって虐待やネグレクト（育児放置）を受けたことにより、保護者との安定した愛着（愛着を深める行動）が絶たれたことで引き起こされる障害の総称。愛着障害を示す子供には衝動的・過敏行動的・反抗的・破壊的な行動がみられ、情愛・表現能力・自尊心・相手に対する尊敬心・責任感などが欠如していることが多い。他人とうまく関わることができず、特定の人との親密な人間関係が結べない、見知らぬ人にもべたべたするといった傾向もみられる。

### (3) コミュニケーション上の留意点

施設の子供たちは、前述のとおり、生活圏が狭く、学校教員や施設職員以外の大人と接する機会が乏しい。そのような意味において、プログラム時間や休憩時間に、子供たちと積極的にコミュニケーションをとることは、自然体験の効果をさらに高めるものと思われる。その際に留意したい事項は以下の2点である。

#### ① “施設”と“親”を想像してしまう言葉は使わない

プログラムを通じて、子供たちの信頼関係を築くことができれば、子供たちから積極的に話しかけてくるようになる。これは、通常の事業と何ら変わることはない事象である。その際、何気ない会話の中に“施設”や“親”に関係する言葉や話題とならないよう留意することが望ましい。

## ② 家庭や家族の話題には深くかかわらない

施設には様々な境遇の子供たちが生活している。土日や夏休みに家族のもとに一時帰宅できるものもいれば、親から保護されており、会うことができない子供もいる。施設のヒアリングでは、育児放棄や虐待があっても、子供にとって親は親であり、親元に帰りたい願望があるとのことであった。そのようなことから、親元へ帰るという虚言癖のあるものもいるため、子供が家庭や家族の話をした場合は、その話には深くかかわらず、やり過ごすことがよいとのことである。

## (4) 予算・昼食・持物・交通手段について

児童養護施設は、前述のとおり、主に国の予算（措置費）で運営されており、その中で、子供たちの被服代や自然体験などの活動に係る費用も支出できる。施設で支出や準備できるものは以下のとおり。

- 参加に係る予算の執行
- 参加に係る必要物品の購入 1,000 円未満
- 昼食の持参 ※ 施設でお弁当を用意
- 飲み物の持参 ※ 水筒を各自で持参

参加にあたり、けが防止のためマリンシューズを必須としている海洋センターが多い。しかしながら、ヒアリングを実施した児童養護施設で、マリンシューズを持っている施設はなかった。参加に必要な備品については、1,000 円未満であれば、購入が可能であるようであるが、その金額の範囲内でマリンシューズを購入するのは厳しい。夏休み中であれば、靴擦れ防止のため、くるぶしまである靴下を履き、学校で使用している上履きを使用することにより、対応が可能となる。昼食と飲料については、施設で用意することが可能である。ただし、夏場の熱中症対策の一つとして、海洋センターで追加の飲料は準備したいところである。

移動手段は、一般的に自動車になると考えられる。施設の運営形態が大舎制で、施設イベントとして海洋センターを利用するとなると、スタッフも入れて 20 人以上の参加となると思われる。マイクロバスを保有している施設であれば、特に問題はないが、そのような恵まれた環境の施設は決して多くない。施設ではワンボックスタイプ（7～8 人乗り）の車両を 2～3 台程度は保有しているので、分乗して移動することは可能である。また、児童養護施設所在市町村で、マイクロバス貸出を行っている自治体もある。その場合は、低廉な費用（燃料費は実費、貸出料は 1,000 円など、ドライバーは別途必要。）で使用することが可能となる。利用方法は、事前に利用団体としての登録が

必要など、各自治体で異なるが、児童養護施設であれば、利用できる可能性が高い。しかしながら、ヒアリングした施設では、自治体のマイクロバスを借りることができることを認識している施設はなかった。

なお、予算については、海洋センター利用料や保険料、交通費など、支出目的が明確になっていればどの施設でも支出が可能とのことである。

## (5) 海洋性スポーツプログラムの満足度について

2016 年度に実施した、1泊2日の宿泊型海洋性スポーツキャンプ「B & Gチャレンジキャンプ」と、日帰りの海洋性スポーツ体験「B & Gマリンキッズ」の両パイロット事業では、各プログラムの満足度調査を行った。主なプログラムの満足度は以下のとおり。

### ① 1泊2日「B & Gチャレンジキャンプ」

男子

評価点	カヌー体験						SUP体験						バナナボート					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
件数	10	3	6	0	0	1	11	6	1	1	0	1	18	1	1	0	0	0
割合	50%	15%	30%	0%	0%	5%	55%	30%	5%	5%	0%	5%	90%	5%	5%	0%	0%	0%
平均点	5.0						5.2						5.9					
満足度	83%						87%						98%					

女子

評価点	カヌー体験						SUP体験						バナナボート					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
件数	5	1	2	0	0	1	3	2	2	0	1	0	6	1	1	0	0	0
割合	56%	11%	22%	0%	0%	11%	38%	25%	25%	0%	13%	0%	75%	13%	13%	0%	0%	0%
平均点	4.9						4.8						5.6					
満足度	81%						79%						94%					

### ② 日帰り「B & Gマリンキッズ」

男子

評価点	カヌー体験						SUP体験						バナナボート					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
件数	3	4	5	2	2	0	5	2	5	3	0	1	15	1	1	0	0	0
割合	19%	25%	31%	13%	13%	0%	31%	13%	31%	19%	0%	6%	88%	6%	6%	0%	0%	0%
平均点	4.3						4.4						5.8					
満足度	71%						73%						97%					

女子

評価点	カヌー体験						SUP体験						バナナボート					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
件数	5	1	3	4	1	3	6	3	3	2	0	2	13	1	0	1	0	0
割合	29%	6%	18%	24%	6%	18%	38%	19%	19%	13%	0%	13%	87%	7%	0%	7%	0%	0%
平均点	3.8						4.4						5.7					
満足度	63%						74%						96%					

どの種目も3以上の評価を得ていることから、海洋性スポーツは、子供たちに高い満足度を与えていることがわかる。男女で比較すると、満足度は男子が高くなる傾向にある。これは、体験メニューが体を動かす海洋スポーツであり、冒険心やチャレンジ精神をくすぐるもので、男子が好むような内容であることが影響しているためと考えられる。

また、1泊2日のキャンプと日帰りの体験では、同様のメニューでも、キャンプで実施したプログラムの満足度が高く出る傾向にあった。その理由として考えられることは、天候や海面状況などの違いもあるが、指導者との信頼関係の違いではないだろうか。キャンプでは海洋性スポーツ指導だけでなく、生活面まで関わるため、日帰りのプログラムと比較し、濃密な人間関係が築きやすい。そのようなことが満足度に影響を与えていると思われる。

※ その他のプログラムの満足度は後述を参照

## (6) 児童養護施設の子供たちを受入れる際のリスク

海洋性スポーツは、前述のとおり子供たちに高い満足度を与えることができる。また、日帰りと宿泊型を比較した場合、子供たちと信頼関係を深く築くことができる宿泊型の方が満足度は高くなる傾向があることが分かった。施設の子供たちのアンケートでは、学校行事以外における宿泊型自然体験活動への参加経験は10%に留まっており、そのような機会には恵まれていないことも分かっている。施設のヒアリングでも宿泊型への希望もあることなどから、宿泊型プログラムの必要性は高いと考えられる。

しかし、宿泊型は費用がかかることはもちろんであるが、それ以外の大きなリスクがあることが今回のパイロット事業から明らかになった。そのリスクの一つが既往症への対応である。通常の既往症は、アレルギーやぜんそくがその大半を占めているが、児童養護施設の子供たちの場合は、向精神薬の服用と精神的な不安に起因する夜尿症が多い傾向にあった。そこで、財団で実施した「体験クルーズ」や「東京湾アカデミー」の参加者と「チャレンジキャンプ」に参加した子供たちの、向精神薬の服用と夜尿症を比較した。

・参加者における向精神薬服用者と夜尿症の割合

事業名	参加者数	向精神薬の服用		夜尿症	
2011年度 体験クルーズ	469	0	0%	1	0.2%
2012年度 体験クルーズ	488	1	0.2%	2	0.4%
2015年度 東京湾アカデミー	45	0	0.0%	0	0.0%
2016年度 東京湾アカデミー	78	0	0.0%	1	1.3%
<b>B&amp;Gチャレンジキャンプ</b>	<b>29</b>	<b>3</b>	<b>10.3%</b>	<b>2</b>	<b>6.9%</b>

財団で行ってきた宿泊型事業参加者データと比較すると、やはり児童養護施設の子供たちは、向精神薬の服用と夜尿症が多い。しかしそれ以上に、リスクが高いと考えられることは、そもそも、血液型や予防接種を含む既往症が分からない子供がいることである。

今回のチャレンジキャンプに参加した29人の中のうち10人(35%)は血液型を含む既往症が不明の子供たちだった。様々な理由から母子手帳がない、母子手帳を入手することができないことが、その理由のようである。血液型検査は、保険適用ではないため、施設でも中学進学時などの節目にならなければ検査しないとのことであった。なお、過去に財団で実施していた宿泊型の体験活動において、血液型を含む既往症が不明だった参加者はいない。

事業実施にあたっては、事前研修を行うとともに、適切にスタッフを配置し、安全管理に取り組んでいる。過去の実績においても重大な事故は起こしていない。もちろんプログラムには大出血を伴うような危険性のあるものはない。しかし、安全に完全はない。万が一のことを考えると、宿泊型体験活動では、このリスクは小さいものではない。子供たちの満足度とリスク、費用を勘案すると、児童養護施設への事業展開は、施設スタッフも一緒に体験する日帰りや半日間の海洋性スポーツが最も適していると思われる。

## 今後の事業展開

ヒアリングなどから、児童養護施設には、自然体験活動への要望があることが確認できた。また、パイロット事業を通じ、施設の子供たちの特徴とその対処法、プログラムの満足度、リスクなども明確にすることができた。児童養護施設の子供たちは、様々な家庭背景があり、特殊な障害のある子供たちもいる。しかし、ほとんどの子供たちは通常学級で学校生活をおくっている。そのような意味においては、児童養護施設の子供たちは、各海洋センターで培ってきた指導ノウハウで対応できる範疇といえる。

海洋センターで児童養護施設の利用が進まない原因の一つは、前述のとおり、海洋センターの認知度が低いことである。そのようなことから、第一段階として、個々のB&G海洋センターの体験プログラムや利用料金、地理情報などをまとめた「B&G海洋センター利用案内」を作成。その資料を全児童養護施設に配付し、海洋センターの周知を図り、児童養護施設の子供たちへの海洋性レクリエーション体験を推進する。また、全国児童養護施設協議会と連携し、事業後援などを得て、海洋センターの利用促進を図る。

第二段階として、その活動事例を収集し、新たな課題などに対応するとともに、プログラムをブラッシュアップさせ、全国の児童養護施設および海洋センターへ発信し、事業を拡大させる。

なお、体験格差解消事業の推進には現場指導者の理解が欠かせない。現在、全国指導者会では、障害者の海洋センター利用に関する研修会を実施しているが、児童養護施設やひとり親家庭を含めた「体験格差解消事業」として、連携し展開していく。

### 「B&G海洋センター利用案内」イメージ

北海道 滝川市B&G海洋センター
B&G

**海洋センター所在地**



北海道滝川市西滝川10番地  
電話 0125-23-4194

**体験できるもの**



カヌー(1人〜3人乗り)      バナナボート      SUP(スタンドアップパドルボート)  
※その他、ローボート、水上バイク、船外機付きゴムボート

**開館期間**  
5月第2土曜日〜10月10日(月曜日休館)

**料金**  
一人あたり1時間  
市内小学生 120円・市内高校生以上280円 / 市外小学生190円・市外高校生以上390円

**設備**  
温水シャワー、更衣室、コインロッカー、トイレ、障害者用トイレ(洋式)、障害者用充満スロープ

**周辺情報**  
海洋センター周辺には、パークゴルフ場と温泉があり、徒歩5分の場所に「川の子育て」があります。温泉施設では授乳室などの設備が可能。徒歩10分ほどでコンビニや商店もあります。

**予約・問合せ先**  
<4月〜10月> 滝川市B&G海洋センター 電話 0125-23-4194  
<11月〜3月> 滝川市スポーツセンター1棟1体育館 電話 0125-23-4617  
ホームページ <http://www.takikawa-takikou.jp/kai/youseimintai.html>

佐賀県 太良町B&G海洋センター
B&G

**海洋センター所在地**



佐賀県佐賀郡太良町大字大滝1704-7  
電話 0954-68-0071

**体験できるもの**



バナナボート      モーターボート      カヌー(1〜2人乗り)  
※その他、ヨット、マリジェット、セーリングボート、ウエイカボート、水上スキー

**開館期間**  
5月〜9月

**設備**  
トイレ、駐車場

**周辺情報**  
海洋センター周辺には、「白浜海水浴場」があります。コンビニや商店は車で10分です。

**予約・問合せ先**  
太良町社会教育課 電話 0954-67-0145  
ホームページ [http://www.town.tera.lg.jp/koukyou/\\_1333.html](http://www.town.tera.lg.jp/koukyou/_1333.html)

区分	料金(高校生以下)	
	初日	別日
ヨット(1艇1時間)	290円(10分)	400円(20分)
カヌー(1艇1時間)	200円(10分)	400円(20分)
バナナボート(1人15分)	400円(20分)	600円(30分)
モーターボート(1人15分)	400円(20分)	600円(30分)
マリジェット(1人15分)	400円(20分)	600円(30分)
セーリングボート(1艇1時間)	400円(20分)	600円(30分)
ウエイカボート(1艇1時間)	2,000円(1,000円)	3,000円(1,500円)
水上スキー(1艇1時間)	2,000円(1,000円)	3,000円(1,500円)
占居使用の場合(※1名1艇)	400円(30分)	1,000円(60分)

※ウエイカボート・水上スキー乗用艇は人数によって変更あり  
※占居使用はウエイカボート・水上スキーを除く

## パイロット事業実績

2015年度および2016年度に実施したパイロット事業は以下のとおり。

### 水辺の安全教室 半日

児童養護施設名	紀南学園	たちばな学苑	木曾ねざめ学園	宝田寮
日 程	2015年12月6日	2015年12月26日	2016年2月7日	2016年2月13日
実施場所	三重県熊野市	徳島県海陽町	長野県松本市	徳島県海陽町
参加者	6人	11人	10人	15人
内 容	屋内温水プールでの水辺の安全教室・SUPの体験会	屋内温水プールでの水辺の安全教室・SUPの体験会	屋内温水プールでの水辺の安全教室・ニッパボードの体験会	屋内温水プールでの水辺の安全教室・SUPの体験会

### 海洋性スポーツ体験 一日

児童養護施設名	偕生慈童苑	木曾ねざめ学園	飯山学園
日 程	2015年10月4日	2016年8月9日	2016年8月10日
実施場所	福井県若狭町	新潟県糸魚川市	新潟県糸魚川市
参加者	9人	11人	25人
内 容	世久見湾でのカヌー・SUPの体験会	能生海岸での、カヌー・SUP、海水浴などの体験会	能生海岸での、カヌー・SUP、海水浴などの体験会

### 宿泊型水辺の自然体験 一泊二日

児童養護施設名	阿波国慈恵院 徳島児童ホーム 鳴門子ども学園 宝田寮 加茂愛育園
日 程	2016年8月3日～4日
実施場所	兵庫県南あわじ市
参加者	29人
内 容	淡路島でのマリンスポーツ、淡路青少年交流の家での宿泊、うずしおクルーズ、保安庁巡視船見学など

## ヒアリング調査

2015年度および2016年度に実施した児童養護施設ヒアリング調査は以下のとおり。

	施設名	ヒアリング日程	ヒアリング者
1	福井県大野市 偕生慈童苑	2015年10月5日(月)	施設長 坪内 和夫 氏
2	和歌山県新宮市 紀南学園	2015年12月7日(月)	児童指導員 瀧岡 信也 氏
3	徳島県阿南市 たちばな学苑	2015年12月26日(土)	児童指導員 西山 慶 氏
4	長野県上松町 木曾ねざめ学園	2016年2月6日(土)	園長 下野 良則 氏
5	徳島県阿南市 宝田寮	2016年2月13日(土)	寮長 八木 宏明 氏
6	鳥取県 鳥取こども学園	2016年8月27日(土)	園長 藤野 興一 氏 ※全国児童養護施設協議会会長
7	鳥取県 青谷こども学園	2016年8月27日(土)	施設長 芳尾 範子 氏

## プログラム満足度調査

### ①宿泊型（1泊）海洋性レクリエーション体験会

#### ●実施概要

日程：2016年8月3日～8月4日（1泊2日）

場所：兵庫県南あわじ市 B&G 海洋センター（兵庫県南あわじ市）  
徳島海上保安部（徳島県小松島市）

対象：徳島県に設置されている5カ所の児童養護施設の子供（小4～中2 29人）

	8月3日(水)	8月4日(木)
7:00		6:30起床 6:50朝の集い
8:00		部屋清掃・シーツ返却・出発準備
8:30	徳島児童ホーム出発(三共運輸バス)	8:20 朝食
9:00	バス移動 オリエントーション①	退所式
10:00	南あわじ市B&G到着 オリエントーション② 着替え	9:30 バス移動 福良港へ うずしお学習(10:00～10:45)
11:00	マリンスポーツ体験 午前(10:30～12:00) カヌー・SUP・バナナボート・海水浴	うずしおクルーズ(10:50～11:50)
12:00	昼食・休憩(お弁当)	昼食(12:00～12:45) 福良港ジョイボートレストラン
13:00	マリンスポーツ体験 午後(12:45～14:00) カヌー・SUP・バナナボート・海水浴	13:00 バス移動 徳島海上保安部へ(小松島市)
14:00	着替え	『海を守る 海上保安庁』
15:00	バス移動 国立淡路青少年交流の家へ	
16:00	15:30 国立淡路青少年交流の家 入所式 ベッドメイク・自由時間	
17:00	17:00 タベのつどい	16:00 バス移動 徳島児童ホームへ(振り返り)
18:00	17:30 夕食	17:00 解散
19:00	19:00～20:00 キャンプファイヤー	
20:00	20:30～21:00 入浴	
21:00	就寝準備	
22:00	21:30 就寝	



●各プログラムの満足度

評価点	カヌー体験						SUP体験						バナナボート						キャンプファイヤー					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
	← 高い 低い →						← 高い 低い →						← 高い 低い →						← 高い 低い →					
件数	15	4	8	0	0	2	14	8	3	1	1	1	24	2	2	0	0	0	9	7	7	5	0	1
割合	52%	14%	28%	0%	0%	7%	50%	29%	11%	4%	4%	4%	86%	7%	7%	0%	0%	0%	31%	24%	24%	17%	0%	3%
平均点	5.0						5.1						5.8						4.6					
満足度	83%						85%						96%						76%					

評価点	うずしおクルーズ						宿泊体験						よしの見学					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
	← 高い 低い →						← 高い 低い →						← 高い 低い →					
件数	18	3	5	2	1	0	20	4	1	2	0	2	12	4	5	2	1	1
割合	62%	10%	17%	7%	3%	0%	69%	14%	3%	7%	0%	7%	41%	14%	17%	7%	3%	3%
平均点	5.2						5.2						4.2					
満足度	87%						87%						70%					

男子

評価点	カヌー体験						SUP体験						バナナボート						キャンプファイヤー					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
	← 高い 低い →						← 高い 低い →						← 高い 低い →						← 高い 低い →					
件数	10	3	6	0	0	1	11	6	1	1	0	1	18	1	1	0	0	0	7	4	5	4	0	0
割合	50%	15%	30%	0%	0%	5%	55%	30%	5%	5%	0%	5%	90%	5%	5%	0%	0%	0%	35%	20%	25%	20%	0%	0%
平均点	5.0						5.2						5.9						4.7					
満足度	83%						87%						98%						78%					

評価点	うずしおクルーズ						宿泊体験						よしの見学					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
	← 高い 低い →						← 高い 低い →						← 高い 低い →					
件数	15	0	3	1	1	0	15	2	0	2	0	1	9	4	3	2	1	0
割合	75%	0%	15%	5%	5%	0%	75%	10%	0%	10%	0%	5%	45%	20%	15%	10%	5%	0%
平均点	5.4						5.4						4.7					
満足度	89%						89%						78%					

女子

評価点	カヌー体験						SUP体験						バナナボート						キャンプファイヤー					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
	← 高い 低い →						← 高い 低い →						← 高い 低い →						← 高い 低い →					
件数	5	1	2	0	0	1	3	2	2	0	1	0	6	1	1	0	0	0	2	3	2	1	0	1
割合	56%	11%	22%	0%	0%	11%	38%	25%	25%	0%	13%	0%	75%	13%	13%	0%	0%	0%	22%	33%	22%	11%	0%	11%
平均点	4.9						4.8						5.6						4.3					
満足度	81%						79%						94%						72%					

評価点	うずしおクルーズ						宿泊体験						よしの見学					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
	← 高い 低い →						← 高い 低い →						← 高い 低い →					
件数	3	3	2	1	0	0	5	2	1	0	0	1	3	2	2	0	1	1
割合	33%	33%	22%	11%	0%	0%	56%	22%	11%	0%	0%	11%	33%	22%	22%	0%	11%	11%
平均点	4.9						5.0						4.3					
満足度	81%						83%						72%					

②日帰り型海洋性レクリエーション体験会

●実施概要

日程：2016年8月9日および8月10日（2回）

場所：新潟県糸魚川市能生 B&G 海洋センター（新潟県糸魚川市）

対象：長野県内2カ所の児童養護施設

時間	内 容		
10:00	【Aチーム】 カヌー	【Bチーム】 バナナボート・海水浴	【Cチーム】 SUP
11:00	【Aチーム】 バナナボート・海水浴	【Bチーム】 SUP	【Cチーム】 カヌー
12:00	昼食（海の家）・スイカ割り		
13:30	【Aチーム】 SUP	【Bチーム】 カヌー	【Cチーム】 バナナボート・海水浴
14:30	着替え・帰り準備		

小学生以下の満足度

評価点	カヌー体験						SUP体験						バナナボート					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
高い	←						←						←					
低い	→						→						→					
件数	6	3	5	2	2	0	8	5	1	3	0	0	18	0	1	0	0	0
割合	33%	17%	28%	11%	11%	0%	47%	29%	6%	18%	0%	0%	95%	0%	5%	0%	0%	0%
平均点	3.5						3.9						5.3					
満足度	59%						65%						89%					

海水浴						スイカ割り					
6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
←						←					
→						→					
10	1	2	2	0	0	10	3	1	2	0	0
67%	7%	13%	13%	0%	0%	63%	19%	6%	13%	0%	0%
4.2						4.7					
69%						79%					

中学生以上の満足度

評価点	カヌー体験						SUP体験						バナナボート					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
高い	←						←						←					
低い	→						→						→					
件数	2	2	3	4	1	3	3	0	7	2	0	3	10	2	0	1	0	0
割合	13%	13%	20%	27%	7%	20%	20%	0%	47%	13%	0%	20%	77%	15%	0%	8%	0%	0%
平均点	3.4						3.7						4.9					
満足度	57%						61%						81%					

海水浴						スイカ割り					
6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
←						←					
→						→					
3	3	3	3	0	1	1	3	4	1	0	4
23%	23%	23%	23%	0%	8%	8%	23%	31%	8%	0%	31%
3.7						2.9					
61%						49%					

男子満足度

評価点	カヌー体験						SUP体験						バナナボート					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
	← 高い           低い →						← 高い           低い →						← 高い           低い →					
件数	3	4	5	2	2	0	5	2	5	3	0	1	15	1	1	0	0	0
割合	19%	25%	31%	13%	13%	0%	31%	13%	31%	19%	0%	6%	88%	6%	6%	0%	0%	0%
平均点	4.3						4.4						5.8					
満足度	71%						73%						97%					

評価点	海水浴						スイカ割り					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
	← 高い           低い →						← 高い           低い →					
件数	7	3	3	3	0	0	5	3	4	1	0	2
割合	44%	19%	19%	19%	0%	0%	33%	20%	27%	7%	0%	13%
平均点	4.9						4.4					
満足度	81%						73%					


女子満足度

評価点	カヌー体験						SUP体験						バナナボート					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
	← 高い           低い →						← 高い           低い →						← 高い           低い →					
件数	5	1	3	4	1	3	6	3	3	2	0	2	13	1	0	1	0	0
割合	29%	6%	18%	24%	6%	18%	38%	19%	19%	13%	0%	13%	87%	7%	0%	7%	0%	0%
平均点	3.8						4.4						5.7					
満足度	63%						74%						96%					

評価点	海水浴						スイカ割り					
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
	← 高い           低い →						← 高い           低い →					
件数	6	1	2	2	0	1	6	3	1	2	0	2
割合	50%	8%	17%	17%	0%	8%	43%	21%	7%	14%	0%	14%
平均点	4.7						4.5					
満足度	78%						75%					

以上

**B**  **G**